一般　高齢者の住みやすいまち菊川市

坪井　仲治（みどり21）

これから更なる高齢化社会を迎えるにあたり、菊川市の施策等について質問した。

Q　菊川市シルバー人材センターでは、高齢者にふさわしい仕事を企業・家庭・公共団体などから引き受けて会員の方々に提供し、働くことを通じて追加的収入を得ると共に、健康を保持し、生きがいを持ち、地域社会に貢献することを目的に事業を行っているが、今後の事業拡大等の計画は。

A　事業拡大に対する仕事内容などの考え方としては、新規就業先の開拓に取り組むとともに、少子高齢化社会に対応する子育て支援、家事援助サービス分野への参入などに取り組んでいく。また、静岡県が主催、菊川市とシルバー人材センターが共催にてシニア面接会を開催し、セミナーや市内企業などによる事業紹介、フリーの面接会を行った。

Q　菊川市の男性の令和2年度お達者度が、静岡県内での順位が1位となったが、その要因と、女性のお達者度を上げていくための今後の施策は。

A　男性のお達者度が伸びた要因は、これまで地道に取組を進めてきた介護予防事業の成果により、要介護認定割合が少ないことが主な要因である。女性のお達者度を上げていくための施策としては、運動機能の低下や転倒が要介護の原因となることが多いことから、若い年代からの運動や食の大切さについて啓発していく。

一般　高齢者が元気に暮らせるまち

赤堀　博（みどり21）

現在、日本の平均寿命は男性80.98歳、女性87.14歳と世界最長寿国である一方、健康寿命と平均寿命との差は男性8.84年、女性が12.35年であり、この差を縮めることが課題。介護が必要になった原因の大半は脳卒中、高齢による衰弱、フレイル、転倒・骨折、認知症、関節疾患など、特に75歳以降ではフレイルが原因で介護が必要になる方が増加。「健康な老後、お達者度トップ。男性は菊川市」との記事が新聞掲載されたが、健康に対する菊川市民の意識の高さと行政の取組の効果が伺える。以下質問する。

Q　女性のお達者度が下がった原因は。

A　コロナ禍における外出自粛の影響により女性の要介護2以上の認定者数が増えたことも主な要因の1つ。

Q　口腔ケアの啓発活動は。

A　歯周病の予防対策事業として40歳、50歳、60歳、70歳の節目に歯周病健診対する補助を行うとともに、パンフレットを渡したり健康マイレージの達成者には歯ブラシを渡している。

Q　フレイル、サルコペニア予防について、どのような講座を開催しているか。

A　出前行政講座では、フレイル予防のポイントなどのメニューを用意し、申請者の意向に沿いながらフレイル、サルコペニア予防の周知啓発に取り組んでいる。シニア健康体操教室、きくがわ体操や菊川いきいき体操を取り入れた健やか教室の開催、地域サロンなどへのリハビリ専門職の派遣を実施している。